

自動車安全運転 シンポジウム 2022

企業で目指す安全運転

日時

令和4年11月17日(木) 13:30~16:00

開催方法

YouTube Liveにてオンライン配信

どなたでも
ご参加いただけます!

主催:自動車安全運転センター 後援:警察庁

視聴方法

QRコードまたは下記URLよりご視聴ください。

<https://www.youtube.com/watch?v=tab-goJHdFI>



事前登録

本シンポジウムでは任意での事前登録を受け付けています。

ご登録いただきますとリマインドメールをお送りさせていただきます。事前登録は下記URLまたは右のQRコードからお申し込みください。

<https://forms.gle/Whyo8EFmdRhuxqdf7>



プログラム テーマ:企業で目指す安全運転

開会の辞 13:30-13:35

自動車安全運転センター 理事長 種谷 良二

基調講演
13:35-14:15

道路の公平を生むトラフィックヒエラルキー

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学部 教授
加藤 麻樹 氏

講演 1
14:15-14:30

安全運転管理者制度と飲酒運転の根絶に向けた取組

警察庁 交通局 交通企画課 理事官
岩浅 太一 氏

講演 2
14:30-14:45

事業用自動車の運行管理制度と
プロドライバーの安全運転に対する取組

国土交通省 自動車局 安全政策課 専門官
上田 亨 氏

講演 3
14:45-15:00

自動車安全運転センターを活用した
安全運転指導

自動車安全運転センター 安全運転中央研修所 研修部 実技教官
滝口 禎雅 氏

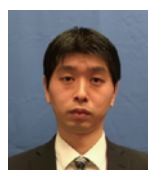
パネルディスカッション 15:10-15:55

コーディネーター 加藤 麻樹 氏

パネリスト 岩浅 太一 氏/上田 亨 氏/滝口 禎雅 氏



加藤 麻樹 氏



岩浅 太一 氏



上田 亨 氏



滝口 禎雅 氏

閉会 16:00

お問い合わせ

自動車安全運転シンポジウム2022事務局

jidousya2022@alfanet.jp



安全運転をつくろう。

自動車安全運転センター

<https://www.jsdc.or.jp/>

* 参考情報 ****

※企業による運行管理・安全運転管理体制が問われた交通事故

・八街児童死傷事故（2021）

令和3年6月28日、千葉県八街市の市道で、下校中だった小学生の列にトラックが突っ込み、5人が巻き込まれた。2人が死亡、1人が意識不明の重体、2人が重傷を負った。運転手の男の呼気からは基準値を超えるアルコールが検出され、事故当時はアルコールの影響により居眠り状態だったとされる。

・軽井沢スキーバス転落事故（2016）

平成28年1月15日、長野県北佐久郡軽井沢町の国道18号碓氷バイパスの入山峠付近で、定員45人の大型観光バスがガードレールをなぎ倒して道路脇に転落した交通事故。乗員・乗客41人中15人が死亡（うち乗員は2人も死亡）。バス運転手の技量不足（入社1ヶ月前の運転適性検査で「事故を起こしかねない」という診断結果）、会社によるずさんな運行管理が事故の要因として挙げられている。

・関越自動車道高速バス居眠り運転事故（2012）

平成24年4月29日に群馬県藤岡市の関越自動車道上り線藤岡ジャンクション付近で都市間ツアーバスが防音壁に衝突した交通事故。乗客7人が死亡、乗客乗員39人が重軽傷を負った。事故現場は片側3車線の南向きの緩やかな左カーブで、バスは道路左側のガードレールに接触し、そのままガードレールの延長線上にある高さ約3m、厚さ12cmの金属製の防音壁端面に車体正面から衝突した。全長12メートルのバスに防音壁が、あたかも突き刺さったかのような形で約10.5mめりこんだ。現場にブレーキ痕やスリップ痕は見つかっておらず、運転手は群馬県警に「居眠りしていた」と説明した。バスの速度計は92km/hを示した状態で止まっており、90-100km/h程度で衝突したと推定される。

・京都祇園軽ワゴン車暴走事故（2012）

平成24年4月12日に京都府京都市東山区祇園で、軽ワゴン車（営業車）を運転していた運転手の男性が、運転中に暴走事故を起こし、運転者を含む8人が死亡、12人が重軽傷を負った。事故原因は運転手の持病のてんかん発作とされた。刑事裁判では、雇用者は運転手の病気を認識していなかったとして不起訴となったが、民事裁判では雇用者と運転手遺族に5,200万円賠償金の支払いが命じられた。また、雇用していた企業は事故による信用不安で経営が悪化し、自己破産するに至った。てんかん患者については、前年にも鹿沼市クレーン車暴走事故（児童6人が死亡）が発生し、本人が交通事故を多発させていたこと、服薬を怠っていたことから、本人・母親・雇用者に1億円を超える賠償が命じられた。

・脱輪タイヤ衝突バス事故（2008）

平成20年4月11日午前11時頃、静岡県牧之原市坂部で東名高速下り線を走っていた大型トラックから、左後輪のタイヤ1本が外れ、道路を飛び跳ねながら中央分離帯を乗り越え、上り線追い越し車線を走行中の観光バス（乗員41名）の前部を上方から直撃した。タイヤはフロントガラスを突き破ってバス運転士に当たり、バス運転士は顔や胸を強打してほぼ即死の形で死亡。その後タイヤは車中を転がり、乗客の男女7人が割れたガラスなどで打撲などの軽傷を負った。バスは衝突から60mほど進み、中央分離帯に寄る形で停止した。バス運転士は、ハンドルを握ってブレーキペダルに足を置き、サイドブレーキを引いた状態で亡くなっていた。この運転士は、入社以来無事故無違反のベテランであり、所属する営業所の「師範運転士」の肩書を持っていた。事故の際、瞬時にサイドブレーキを引き、バスが停止するまでブレーキを踏み、被害を最小限にとどめ、最後までプロの運転手として仕事を全うしたとして、中部運輸局長より表彰された。

一方、大型トラックのタイヤが脱輪した原因は過積載とされ、後日、同社専務が逮捕された。